

## 修正 CMP のパフォーマンス

### 要旨

3通りの修正した SBT の候補管理方式 (CMP) のパフォーマンスを探求した。CMP のうち Gene-Tagging+CPUE(rh11) 及び Gene+tagging+CPUE+Close-kin (rh12) は、2018年6月にシアトルで開催された OMMP 9 において検討した事例を改変したものである。第3の CMP (D25) では、遺伝子標識放流及び近縁遺伝子データのみを使用している。CMP のパフォーマンスは、「2035年までに 0.3SSB」及び「2040年までに 0.35SSB」とのチューニング基準において比較された。「2035年までに 0.3SSB」については、チューニング基準を満たすことができるよう、最初の2回の TAC 決定 (すなわち 2021 - 2023年及び 2024 - 2026年の TAC ブロック) の両方で TAC を増加させるための CMP に関する全般的な要件があった。rh11 と rh12 のケースでは、最大 TAC に制限が追加された。このことにより、これらの CMP が長期的に不安定となり、その結果として将来的に大幅な TAC 減少が必要となるようなレベルまで TAC (及び総漁獲量) が上昇することを防止した。D25 CMP は、2035年までに 0.3SSB という水準にチューンすることができなかつたので、このチューニングの組み合わせについて、同 CMP にかかる代替的な定式化をさらに追求する必要がある。3通りとも全て「2040年までに 0.35SSB」との基準にチューンすることができ、また「2035年までに 70% の確率で 0.2SSB」との基準を達成できた。予備的な結果によれば、「2035年までに 0.3SSB」及び「2040年までに 0.35SSB」のチューニング基準で rh11 及び rh12 により達成される平均漁獲パフォーマンスは類似 (それぞれ 20,000 トン/年及び 17,000 - 18,000 トン/年) しており、また D25 では「2040年までに 0.35SSB」に関する平均漁獲量のパフォーマンスが類似していた (18,500 トン/年)。CKMR データを含む CMP は両方とも年による平均漁獲量の変動が非常に小さく、また TAC パフォーマンス統計の増/減の両方の可能性が非常に小さいかゼロ確率となり、影響が最大限に大きい4つの試験 (as2016、reclow5、cpueupq 及び cpuehcv) に対する頑健性も失われなかつた。

## まぐろ類 RFMO 合同 MSE 作業部会に関する報告

## 要旨

ICCAT 事務局は、2018 年 6 月に開催されたまぐろ類地域漁業管理機関 (RFMO) 合同管理戦略評価 (MSE) 作業部会会合の準備を促進した。同会合は本グループにとって 2 回目の会合であった。CCSBT 科学委員会のメンバー数人が出席した。近年において漁獲制御ルール (HCR) 又は漁獲戦略 (HS) を採択した、又は MP を開発中であって管理戦略評価 (MSE) を通じて MP の試験に取り組んでいる他のまぐろ類 RFMO に比べて、SBT の管理方式 (MP) は非常によく確立されている。まぐろ類 RFMO と複数の RFMO 会合に出席している行政官、利害関係者、コミッショナー及び科学者間の関係は強まっており、コミュニケーション及びテクノロジーの一貫性を確保することが明らかに必要である。まぐろ類 RFMO 合同 MSE 作業部会の報告書はまだ利用可能となっていないが、作業部会からの勧告は利用可能である。ここでは会合からの勧告を簡潔に検討し、報告書及び勧告へのリンクが利用可能となった際には科学委員会メンバーにこれを提供する。